

2016年10月30日（日）

図書館講演会「千鳥足の弁証法—ブラジルの発想に幸せのヒントを探る—」

今回はリオオリンピックが開催されたことに関連して、ブラジル文学やブラジル人の思考様式等について、東京外国語大学大学院総合国際学研究院の武田千香教授にお話していただきました。

当日は27名の方にご参加いただき、みなさん真剣に聞き入る姿が印象的でした。質疑応答も活発に行われ、アンケートでもよかったという声が多数ありました。

府中市立
図書館講演会

10/30
[日]

千鳥足の弁証法
—ブラジルの発想に
幸せのヒントを探る—

14:00
~16:00

《ブラジル文学から
垣間見えるブラジル人
の価値観、思考様式などに
ついて分かりやすくお話しします》

会場 ルミエール府中1階
第一・第二会議室

講師 武田千香氏
(東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授)

中学生以上
先着50名
《事前申込制》

ブラジル人特有とされる行動様式
「ジェイチーニョ」や「マリーシア」。
日本人的発想ではスル賢いと思われがちな
行動の意味を知り「ハッピー」に
過ごすためのヒントを
見つけましょう!

【申込方法】 10月1日（土）から中央図書館に電話または来館
(5階事務室に午前9時~午後7時まで)

【問合せ】 府中市立中央図書館 042-362-8647

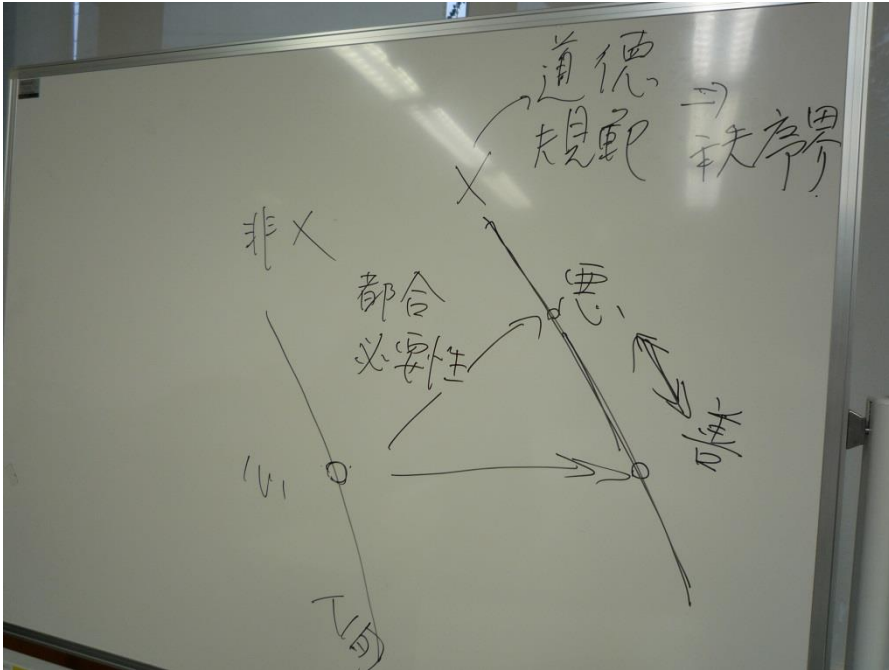
市内の図書館や施設にたくさん掲示したポスターです。みなさんはどこでご覧になりましたか？



この講演は、先生の著書を基にお話していただきました。
図書館でも所蔵しておりますので、ぜひ読んでみてください。



武田先生は大学院の授業だけではなく各所で講演を行っていることもあり、とても軽妙な語り口で、少し難しい講演内容でしたが、参加者の皆さんはしっかりとついていっていました。



ブラジル人の思考方法としては、基本的には善悪という秩序の中で生活していますが、必要に迫られたときは、秩序の中から飛び出した別の世界で物を考え行動する、ということです。それはなにも悪いことではなく、人間としての行動であるという誇りをもっている、という特徴があります。



ブラジル人特有の行動様式、ジェイチーニョ。先生の実体験等、具体的な事例を挙げながら、わかりやすく解説してくださいました。

何か困ったことが起こったとき、決まり事やルールにとらわれず、柔軟に対応し、その時の最善の方法を考え行動することを総称し、ジェイチーニョと呼ぶそうです。



ジェイチーニョは秩序の概念の外にあるものという認識なんですね。ブラジル人の中でもジェイチーニョはものによって善・悪のグレーゾーンと意見が分かれるそうです。日本人にはなかなか実践は難しいかもしれません。

しかし、このような考え方を参考にすることで、視野が広がり、固定概念にとらわれない柔軟な考え方ができるようになるのではないのでしょうか。それにより、真面目に考えて疲れるよりも心を軽くしてほしいという先生の願いも伝わってきました。

質疑応答でも参加者の方々が多くの質問を熱心にされていて、それに丁寧にご回答いただけていました。

図書館には、武田先生の著書のほか、ブラジル文学やブラジルに関する資料を多数取り揃えております。より興味を持たれた方は、ぜひ図書館に足を運んでみてください。